

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1491400048
法人名	社会福祉法人 一燈会
事業所名	グループホーム はなの路
訪問調査日	令和8年3月11日
評価確定日	令和8年4月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は23項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491400048	事業の開始年月日	平成21年7月1日	
		指定年月日	平成21年7月1日	
法人名	社会福祉法人 一燈会			
事業所名	グループホームはなの路			
所在地	(258-0026)			
	神奈川県足柄上郡開成町延沢685-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	令和8年3月2日	評価結果 市町村受理日	令和8年4月16日	
			ユニット数	2 ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生きがい支援に力を入れ、コミュニケーションにも力を入れています。一人一人の
かなえない思い、例えば墓参りに行きたい、土いじりをしたい、カラオケに行きたい、
山に登りたい、美味しい味噌ラーメンが食べたい。「○○したい」を伝えられない方には、
ご家族様にお聞きしたり、日常生活の中でご本人が興味を持たれたりする事柄から読み取り、
ご本人様が喜ばれることを、お誕生日の行事に組み込ませていただいています。また、ほとんどの方が
外出好きなので、日々散歩、ドライブには出かけておりますが、それ以外に、片道車で1時間前後の所へ年2回
(各フロアで行きますので、合計4回) お出かけしており、入居者様にも高評価を得ております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和8年3月11日	評価機関 評価決定日	令和8年4月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホームはなの路は、社会福祉法人一燈会の運営です。同法人は高齢者事業、障がい者・障がい児支援事業を中心とした福祉事業を神奈川県西部エリアで展開しており「生きがいあふれる地域をつくろう」をキャッチコピーとして、地元の人材を多く採用しています。また、地域の高齢者、障がい者・障がい児が住み慣れた地域で暮らしを継続できるように寄与している法人です。事業所は、小田急線「新松田駅」からバスで約10分、下車後徒歩5分の場所に位置しており、同一敷地内には同法人が運営する有料老人ホームおよび障害者グループホームが併設されています。

●事業所では、ユニットごとにリーダーを配置し、各階のリーダーが相互に他階の情報共有を常に行うことで、利用者の状態把握や課題の共有を行っています。実践における課題や改善点についても話し合い、共通認識の形成に努めるとともに、シフト作成にも関与しています。

また、管理者不在時においても、ケアマネジャー、居室担当、リーダーが連携し、業務や家族対応が円滑に行える体制を整えています。

●ケアについては、法人理念である「生きがいある人生に、挑む。」に基づき、利用者一人ひとりの生活リズムや好み、過ごし方を尊重した支援を行っています。本人ができることは可能な限り自身で行っていただくことを基本としています。また、支援内容に職員間でばらつきが生じないように、管理者を中心に対応方法を検討し、申し送りやミーティングを通じて共有することで、統一した支援の提供に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム はなの路
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「生きがいある人生に、挑む」により、職員はチャレンジする姿勢を持ち、役職者も応援しています。地域密着施設として、出入り自由な施設を目指しており、ボランティアさんが来てくださったり、行事にお手伝い参加して下さっています。今後も地域の方々との交流を行う予定です。	事業所では、法人理念である「生きがいある人生に、挑む」を玄関に掲示し、職員が常に意識できる環境づくりを行っています。年度初めには職員間で理念の共有と確認を行い、利用者の思いを尊重したケアの実践と、職員一人ひとりが挑戦する姿勢を持つことを目指して取り組んでいます。また、地域密着型の施設として、ボランティアの受け入れや行事への協力依頼などを通じ、地域住民との関わりを積極的に持つよう努めています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上延沢自治会の賛助会員となっております。開成町民生委員児童協議会高齢部会の方々とも交流ができ、車椅子介助をして頂いて、あじさい鑑賞会を行ったり、秋祭りでは屋台のお手伝いをさせていただいております。	自治会には賛助会員として加入しており、アプリを活用して地域の情報を収集しています。また、開成町民生委員児童委員協議会高齢部会との交流もあり、あじさい鑑賞会では車椅子介助、秋祭りでは屋台運営の支援を受けています。さらに、放課後等デイサービスの小学生によるハロウィン訪問でのお菓子配布や、近隣高校の職場体験の受け入れを行うなど、地域との交流機会の拡充に取り組んでいます。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々認知症に関する事柄を発信は現在行ってはいないが、キャラバンメイトを研修済みの職員もいるので、今後は講習等を行っていきたく考える。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、偶数月の第3水曜日に開催し、開成町、社協、民生委員、家族、自治会に参加を案内し、施設の入居者の状況報告、行事報告、事故報告、職員状況、その他、地域に関する意見を意見交換しています。	年6回、偶数月の第3水曜日に運営推進会議を開催しています。会議では、行事等の写真を提示しながら、事故報告や入院者の状況、職員の異動等について説明を行っています。今年度は自治会長の交代に伴い、入居者の平均年齢や日常の様子等に関する質問が多く寄せられました。また、民生委員の見学も受け入れることで、事業所への理解促進につながっています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関する事で分からない事柄が出来た時や、書類作成で不明点があった時などもすぐに聞きに行き指導を受けている。他市町村の方の入居に関する協議依頼、事故報告提出時に詳細を伝える等、日常的に直接顔を合わせて話が出来ることで風通しの良い関係が出来ていると感じている。	町役場の担当者とは、日頃から介護保険に関する不明点や事業所での判断に迷う事案について適宜連絡を取り、相談や助言を受けるなど、良好な連携関係を築いています。また、事例検討会等の研修にも参加し、情報収集に努めています。さらに、運営推進会議にも参加いただいております。地域の情報共有や相談ができる関係性の構築につながっています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口に電気錠が設置されている施設なので、身体拘束にならない工夫が必要。入居者が一人で出かけることは危険もあり、毎日9:40-10:25の間に散歩やドライブに1対1で外に出ている。気分転換と日光を浴びることで、体内のストレスを発散させようとしている。ご家族様には、電気錠について安心と思われる方がほとんどではあるが、自由に出入りが出来ない事でストレスになる事もある事を説明し、時間を決めて外に出るようにしていることをお伝えし、ご家族様と出かけることも推奨している。	身体拘束適正化委員会は、管理者、フロアリーダー2名、職員2名の計5名で構成され、年6回以上開催しています。委員会では、事例をもとに身体拘束に該当しないかの確認や意見交換を行い、その内容については各フロアのリーダーが伝達研修を実施し、全職員への周知を図っています。また、玄関の出入り口については、利用者の安全確保の観点から電気錠を使用しており、家族には事前に説明を行い、理解を得ています。さらに、天候の良い日には、決められた時間に1対1で散歩やドライブに出かけるなど、個別の外出支援にも取り組んでいます。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を年2回行い、勉強をテスト形式で行っている。DM・sutadyuというソフトを使い、動画研修後し、テストをし、学んだことをレポート提出している。日常業務の中で、これは虐待にあたる事なのかをその場で話し合う体制も出来ている。	虐待防止および身体拘束適正化に関する委員会は年2回開催し、オンラインによる動画研修を受講しています。研修では、具体的な行為や定義について理解を深め、受講後はレポートを提出しています。また、職員が過度なストレスを抱えないよう、管理者が日常的に声かけを行い、相談しやすい環境づくりに努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	南足柄市に成年後見支援センターがあり、そこからの情報発信の研修に参加している。今年度は、案件があり、相談をし、無事成年後見人が付いたケースもあり。また、入居者に成年後見人が面会に毎月来られているので、職員も制度を身近に感じる事が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に関して、ご理解いただけるように丁寧に説明し、安心してサービスの利用が出来るようにしている。また、疑問点等があったり、今更聞けないことがないように、いつでもご意見を伺う関係性作りを日頃からしている。ご家族からのご質問には、いつでもお応えできるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会で来られた時には、最近の様子をお伝えし、ご家族様と対等な関係性作りを行っています。ご家族様の意見を聞き取ることも行い、その場でミニカンファレンスのような状況になる事もあります。入居者様の生活がより良いものになるように、家族様ともよく話し合える関係が出来ています。	面会時には、利用者の体調や食事量等の状況を家族へ報告し、意見や要望の確認を行っています。また、1家族を除き、ほぼ全ての家族とLINEでつながっており、次回面会の日程調整等、日常的に密なコミュニケーションを図っています。さらに、管理者およびフロアリーダーもLINEの情報を共有しており、家族来訪時には円滑な対応が可能となっているほか、信頼関係の構築にもつながっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務効率化は、職員目線ではなく、入居者目線での運営を行うように役職者が指導している。職員のやりたい事は、法人理念にもあるように「生きがいある人生に、挑む」を実践できるよう、常に役職者はチャレンジできるように、職員の自由な発想を推奨している。思いつかない職員には、役職者から職員の得意なことや、趣味の部分を業務に生かされるよう指導を行うことで、きっかけが作られ、職員も生き生きとした仕事を行い、達成感も味わえる。	朝夕の申し送りや連絡帳を活用し、職員が意見や要望を気軽に発信できる環境づくりに努めています。全体で共有すべき事項については、管理者から周知を行う体制としています。また、職員には積極的にチャレンジする姿勢を促し、個々の趣味や得意分野を活かして主体的に行動できるよう支援しています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時には、個々の希望休を事前に聞き、複数日休暇を取りたい時も希望に沿うようにしている。毎月各施設で表彰制度があり、頑張った人に千円支給制度が法人全体にある。出勤時の元気がない様子や、日常業務時にも何となく元気がないと感じる職員を発見した時は、役職が声をかけ、悩み事などを聞くようにしている。定期的に役職が個人面談を行うようにしている。	職員が仕事に対して意欲や向上心を持てるよう、「ワクワクシート」を活用して個々に目標を設定しています。毎月の振り返りを行うことで、職員が主体的に行動できる環境づくりを推進しています。シフト作成にあたっては、希望休や有給休暇の取得を促進するとともに、勤務日数や家庭の事情等に配慮し、職員が働きやすい勤務体制となるよう調整しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じて研修参加を促している。地域で行われる研修への参加の機会を回覧などで知らせたりしている。積極的ではない職員へは、個別にその日に管理者と一緒に研修場所に行けるようにセッティングし、無理強いではないが研修に行くことで、学びが出来ることを体感してもらっている。法人では、キャリアアップ研修もあるので、全職員に促している。認知症実践者研修等にも参加希望を募っている。	個々の状況に応じて研修参加を促進しています。ケアマネジャー連絡会や外部研修については、外部との情報共有や関係構築を重視し、職員が積極的に受講できる環境を整えています。キャリアアップ研修については、全職員の参加を促しています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH施設長の見学を積極的に取り入れている。法人内のGH管理者が集まり、相談をお互いに行うことで、より良いものを目指している。デイサービスや特養、住宅型有料などの見学にも行き、まねのできるどころや、ノウハウを聞く機会を作っている。足柄上地域医療連携主催のグループホーム部会に参加し、GHを運営していく上での課題や他のGHはどのような対応をされているのかを定期的に話し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談を行い、施設での生活支援へのご希望をお伺いしている。なんでも聞ける関係性を心がけて対応を行っている。入居時の不安から、高齢者のみでの荷物運びに不安を抱えておられる時は、お手伝いするなど、臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に感じていることを契約時などにすぐに言ってお知らせする家族もあるが、中々言えない家族の方は、顔を合わせる回数が増えることで、良いコミュニケーションが出来るので、そこから本心をお伺い出来ることもある。同じ対応ではなく、その家族に合わせた対応を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族がご希望の支援の内容を一番目の支援とする。そして、このような生活を送って欲しいの希望をお聞きし、その目標に向かった支援計画を実行している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体の支援ではなく、ご本人主体での支援を考える。ご本人の達成感や〇〇したいの気持ちを尊重した支援を行う。周りの方々との関係性も良好に保てるよう、たわいのない会話を職員が橋渡ししたり、ゲーム等で楽しく過ごしたり、ドライブと一緒にいくことで関係性を良好に出来るよう支援を行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限はなく、一緒にいつでも過ごせる環境づくりを行っている。外出、外泊も自由に来ることを伝えている。理美容に関しては、外に連れ出す良い機会と捉え、家族と一緒に理美容に行かれることもある。LINEでつながっている遠方の家族にも写真や動画を送ることでいつでも様子がわかるようにしている。インスタグラムも見ておられる家族が多く、様子がわかると好評を得ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、ご自宅近くにドライブに行くこともある。そこで、近所の方にお会いすることもあり、その後、面会に来られることもある。在宅時代のケアマネジャーの事業所にご本人とドライブで行き、入居後のお話しを行うこともある。その時に記念写真も撮っている。色々と昔のことを思い出されてお話をされる方もいらっしゃる。	入居前から友人とLINEでつながっている利用者については、定期的に友人が面会に訪れるなど、交流が継続されています。入居後においても、実家周辺へのドライブの際に馴染みの方と再会し、その後面会に来訪されるケースが見られるなど、関係性の維持につながっています。理美容については、家族の支援により、これまで利用していた馴染みの美容院に定期的に通う利用者もおり、これまでの生活の継続が図られています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の心身の状態に合わせ席を配置している。他の方と一緒に過ごすのが苦手な方は無理強いをせず、距離をとって頂き職員がタイミングを見計らい話しかけたりと孤立しないようにしている。たわいのない会話で、職員が会話の橋渡しを行うこともしている。洗濯畳で大きなリネン類を協力して畳まれることもあり、関係性をよくするように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁を大事にし、サービス終了後も相談を受けたり・アドバイスをしたりとフォローできる体制が出来ている。お亡くなりになられた時のご連絡やご挨拶に来られる家族があり、はなの路でのエピソードを話し合う関係性が出ています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が困難なお客様へは、これまでの生活歴やご家族様から聞き取りを行い、それらのことを鑑みながら、今のご本人の立場にたち「どうしたいのか、過ごしやすい環境はどんなものなのか」を考えていく。普段の様子も観察しながら本人の希望を探ったりし、意向の把握に努めている。	入居前には、本人および家族から生活歴や既往歴、趣味・嗜好、事業所での生活に対する希望等を聴き取り、アセスメントシートに記録しています。意思疎通が困難な利用者については、アセスメントシートや家族からの情報を基に、本人の意向に沿った支援となるよう努めています。誕生日には、本人の希望を確認した上で、職員とともに寿司店や喫茶店を利用するなど、楽しい時間を過ごせるよう配慮しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャー、ご本人、デイサービス等の介護保険のご利用があれば、利用しているところの担当者・職員さんに状況をお伺いして、情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の活動は何が好みで、何が好みではないのか等の把握を行う。以前は出来ていた事が、出来なくなっている事を把握し、記録し他職員とも連携している。日内の時間帯によっても変化があるので、その時の状態を把握し、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の面会時や電話・LINEアプリ等にまめに現状の報告と今後起こりえる事を伝えるようにしている。また、必要に応じご家族様に時間をとって頂きしっかりと話し合いの場を設けている。その情報をもとに介護計画の作成を行っている。	ケアプランの更新にあたっては、短期を3か月、長期を6か月の目標として介護計画を作成しています。日頃より家族に対しては、面会時や電話、手紙等を通じて、利用者の体調や生活状況について報告を行っています。月末には、LINEを活用し、利用者の写真とともに近況報告を送付しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼの記録システムで常にお客様の最新の情報を把握し職員間での情報共有を努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人だけでなく、ご家族様の状況に合わせて、在宅医療・訪問精神科・訪問歯科・訪問マッサージ・訪問美容のサービスを取り入れ柔軟な対応が出来るようにしている。ご家族様の負担を減らしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には季節に応じた観光場所が多彩である。お祭りも多く積極的に参加している。例えば、開成町阿波踊りは雨天時、地元の方が訪問し、目の前で阿波踊りを見せてくださる。図書館やスーパー、洋品店、道の駅等にお出かけし、地域の資源に触れ合っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を第一にし、かかりつけ医を選んでいただいている。希望があれば、訪問診療のある協力医療機関を提案している。外部の医療機関へ行かれるときは、職員が状態をご家族様に説明したり、手紙を渡したり、時に同行し医療機関との連携を図っている。	かかりつけ医による往診は月2回実施しており、1階と2階でそれぞれ別の医療機関と連携しています。主治医については家族の希望により選択が可能です。現在は全利用者が事業所の往診医を主治医としています。歯科健診については、月2回、希望者を対象に実施しています。加えて、リハビリマッサージを受けている利用者もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回法人内の看護師が来てくださり、看護師とも相談が出来る関係性が出来ている。ほのぼのとした看護師がどこにいても状況が把握できるようになっており、的確な指示が出せるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談を行い関係性作りに努めている。入院時等は定期的に病院とやり取りを行い、家族とも情報共有を行っている。退院時には、ご本人に面会し、ご本人の様子を見、状態の把握を看護師から直接話をお聞きし、退院後の対応などを相談し、入居者や家族が不安にならないようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化された時のお話はさせていただいている。ご本人・ご家族様の希望を優先にし、医療機関ともお話の場を設け、施設として提供できるサービスを説明し十分なご理解を得て支援している。	入居時には、重度化した場合における看取りの指針について説明を行い、同意書を取り交わしています。重度化した際には、利用者および家族の意向を確認しながら対応方針を決定しています。状況に応じて、本人にとってより適した支援が提供できるよう、系列の特別養護老人ホームへの移行についても提案しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の医療的処置ファイルなどを活用し、急変時等の対応の仕方の情報共有をしている。また、ドクターメイトや訪問看護師などに連絡しわからないこと等を聞いて情報を得ている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施。参加できていない職員にも状況を書面で回覧している。BCPの研修を行っている。水害避難訓練を年1回以上行っている。地震時の訓練も行い、施設に問題がなく、余裕があれば、近隣の方のお手伝いについても出来る範囲で行えるよう考えている。	火災想定2回、地震対応1回、水害対応1回の計4回の災害訓練を実施しています。2月の訓練では、入居者も水消火器を使用し、職員とともに訓練に参加しています。備蓄品については、敷地内にある同法人の有料老人ホームと共有しています。賞味期限が近いお粥については、地域住民にも声をかけ、試食を兼ねた「お粥フェア」を実施するなど、有効活用を図っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分からない状況は、不安をもたらすので、その人が理解できる声掛けを行っている。人格や尊厳は、皆同じ考え方ではないので、その方が生きてきた環境を把握した声掛けをしている。職員一人一人のその方との関係性にも関わってくるので、一概に決まり切った声掛けはせず、臨機応変な声掛けを行うようにしている。	利用者一人ひとりと丁寧にコミュニケーションを図り、理解しやすい声かけを行うことで信頼関係の構築に努めています。人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を損なうことのないよう、言動や対応に十分配慮しています。居室への入室や排泄支援、入浴介助等の場面においても、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を徹底しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人がしたい事を引き出すように会話を行っている。また、画像や動画を見せたりしながら、理解を得ながら話をすすめるようにしている。そんな会話の中から、ご本人の本意を聞き逃さないようにし、聞き出した結果を記録し共有している。また、疎通困難な方へは家族の情報をもとに提案をさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあくまでも目安として考え、職員がお客様のペースに合わせて臨機応変に対応を行っている。お客様が過ごしやすい環境作りにも今後も努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には洋服を選んで頂く。少し困難な方には、職員と共に選んだりしている。整髪では、分け方などを本人に確認しながら行う。疎通が困難なお客様に対しては、起床後や食後等に衣服や口周りを綺麗に配慮している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様が食事の盛り付け・後片付けを自分の役割と思って自ら行われている。お客様自身が下膳してくださり、その食器をお客様が受け取り洗ったりと、お客様を中心とした食事の時間が作れている。	系列会社から調理済みの食事が三食提供されており、ご飯および味噌汁は事業所で用意しています。食事の盛り付けや後片付け、食器洗い等については、利用者が自らの役割として主体的に参加しています。おやつレクリエーションでは、利用者とともに好み焼きやおはぎ等を調理し、楽しみながら食に関わる機会を提供しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほのぼの介護記録に食事・水分量の記録を行っている。また、食事形態や補助具・飲み物を工夫しなるべくご本人様に負担無く摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様個々の力に合わせ見守り・介助・声掛けを行い、清潔を保持している。声掛けのタイミングもお客様の状態を見計らい、無理強いないようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	大まかな時間は決めてあるが、お客様個々に合わせ少し早めたり、遅らせたりとタイミングをずらして対応している。誘導時も羞恥心に配慮し、声掛けの言葉や声の大きさに気をつけている。	全利用者の排泄チェックシートを記録し、一人ひとりの状況に応じて時間を調整しながら声かけを行い、日中はトイレ誘導を実施しています。声かけにあたっては、声のトーンや言葉遣いに配慮し、羞恥心を損なわないよう留意しています。自立している利用者については、さりげない見守りのもと状況を確認し、記録を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因や影響を個々の状態に応じて考えている。食べ物・飲み物を工夫したり、歩行や運動を促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は目安として決めてあるが、お客様によっては日課の一部となっている方もいる。入浴時間はお客様のタイミングになるべく合わすようにしており、ゆったりと楽しんで入浴できるように支援している。	入浴は週2回、午後の実施を基本として支援しています。特定の休止日は設けておらず、利用者の意向に応じて午前中に入浴する場合があります。浴槽については、各フロアにリフト浴と一般浴の2種類を備え、利用者の状態に応じて使い分けています。ゆず湯や菖蒲湯を取り入れるなど、季節感を楽しめる入浴支援にも努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣やその日の体調に合わせ必要に応じ適宜休んでいただいている。夜も、時間でお部屋に誘導するのではなく、TVを見たり楽しむ時間を設け、眠たくなったら入眠を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解できるように職員一人一人がお薬の説明書を確認している。与薬時は確認表を用いて職員二人でダブルチェックを行い誤薬がないように行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般を通し、今までご自宅でやってきた事、仕事でされてきた事を提供し、お客様が活躍できる場を提供している。食後の後片付けや、洗濯物畳等自発的に行ってくださる環境になっている。また、定期的に行事などを行いお客様に楽しみもって、気分転換をしていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日ごろから外へ散歩ドライブ等に出かけている。また、時折ユニット全体での外出も行い、事前にご家族様へ許可を得て行っている（去年は虎屋工房、丹沢湖など）	天候や体調を考慮しながら、散歩やドライブなどの外出支援を行っています。近隣では、桜やあじさい、菖蒲、酔芙蓉など、季節の花々を楽しむ機会を設けています。遠出の外出イベントでは、車3台を使用し、虎屋工房や丹沢湖へ利用者全員で出かけるなど、外出機会の充実に取り組んでいます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は持っていないが、認知症であるお客様にとって金銭を所持していたほうが良いと判断した場合はご家族に相談し、同意を得た上でお客様に金銭管理を任せている方もいる。所持している事の大切さを理解した上での対応をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様から要望があれば必要に応じ支援している。 また、中には携帯電話をもっているお客様もいるのでご本人のタイミングでご家族様へ連絡を行っている。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内が常に清潔で居心地が良い空間であるよう努めている。お客様と一緒に製作した季節のものを飾ったり、イベント時の写真を飾ったり、職員が月に1度に季節に合った模様替えをし、季節感を演出している。	共用空間は、利用者に不穏や混乱を招くことがないように、日常的に整理整頓を心がけています。動線の確保に配慮しながら、温度や湿度、採光の調整を行い、快適な環境づくりに努めています。庭では夏野菜の栽培を行い、きゅうり、なす、枝豆、トマト等の手入れを利用者とともにを行っています。収穫した野菜は食事に取り入れ、美味しくいただいています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置く事でお客様同士がゆっくりとお話することが出来ている。また、お部屋で御自分の趣味をされたり、休まれる方もいたり、一人になれる時間も大切にしている。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅に伺わせて頂き、お部屋の配置に近い状態になるようベッド・家具等配置している。ご自宅で愛用していたものを積極的に持参して頂くようにしている。	居室には、防災カーテン、クローゼット、エアコン、ベッドを備えています。入居時には、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいただき、本人が安心して居心地よく過ごせる空間づくりを行っています。居室の清潔保持については、月1回、専門業者によるクリーニングを実施し、衛生的な環境の維持に努めています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂場の案内やお部屋の入り口には表札をつけることで、混乱無く生活できるように支援している。			

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム はなの路

作成日 令和8年3月11日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	一人一人のスキルアップ、日本語の理解	チーム員全てが理解し、意見が言えるようになる事。	的確な状態把握を行う為、各々の知識力を付ける。内・外部の研修を受けられる環境を作る。シフトに組み込む。	1年以上
2	35	訓練・研修を行っているが、本番時に的確に動けるのか心配	不安なく有事時に行動できるようになる	繰り返しの確認と訓練回数を増加する。できれば、毎月避難訓練を行えるようになると良い。	1年以上
3	36	出来ていない時がある	いつも出来る	出来ていない時の状況把握。自覚し、反発することなく素直に受け止められ、改善、精神状況の把握も行っていく。	半年
4	45	出来ていない時もある	いつも出来る	職員のスキルアップのため、現場で相互に確認し合う時間（シフト）を作り、改善点を見つけ、実施する事が出来るようになる。	3か月
5	47	うろ覚えのお薬がある	職員全てが理解できる	ひと目でわかるお薬の名称・効能・副作用等の一覧を作成する。	3か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム はなの路
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「生きがいある人生に、挑む」により、職員はチャレンジする姿勢を持ち、役職者も応援しています。地域密着施設として、出入り自由な施設を目指しており、ボランティアさんが来てくださったり、行事にお手伝い参加してくださっています。今後も地域の方々との交流を行う予定です。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上延沢自治会の賛助会員となっております。開成町民生委員児童協議会高齢部会の方々とも交流ができ、車椅子介助をして頂いて、あじさい鑑賞会を行ったり、秋祭りでは屋台のお手伝いをさせていただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との認知症に関する事柄を発信は現在行ってはいないが、キャラバンメイトを研修済みの職員もいるので、今後は講習等を行っていきたいと考える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、偶数月の第3水曜日に開催し、開成町、社協、民生委員、家族、自治会に参加を案内し、施設の入居者の状況報告、行事報告、事故報告、職員状況、その他、地域に関する意見を意見交換しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関することで分からない事柄が出来た時や、書類作成で不明点があった時などもすぐに聞きに行き指導を受けている。他市町村の方の入居に関する協議依頼、事故報告提出時に詳細を伝える等、日常的に直接顔を合わせて話ができることで風通しの良い関係が出来ていると感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口に電気錠が設置されている施設なので、身体拘束にならない工夫が必要。入居者が一人で出かけることは危険もあり、毎日9:40-10:25の間に散歩やドライブに1対1で外に出ている。気分転換と日光を浴びることで、体内のストレスを発散させようとしている。ご家族様には、電気錠について安心と思われる方がほとんどではあるが、自由に出入りが出来ない事でストレスになる事もある事を説明し、時間を決めて外に出るようにしていることをお伝えし、ご家族様と出かけることも推奨している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を年2回行い、勉強をテスト形式で行っている。DM・sutadyuというソフトを使い、動画研修後し、テストをし、学んだことをレポート提出している。日常業務の中で、これは虐待にあたる事なのかをその場で話し合う体制も出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	南足柄市に成年後見支援センターがあり、そこからの情報発信の研修に参加している。今年度は、案件があり、相談をし、無事成年後見人が付いたケースもあり。また、入居者に成年後見人が面会に毎月来られているので、職員も制度を身近に感じる事が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に関して、ご理解いただけるように丁寧に説明し、安心してサービスの利用が出来るようにしている。また、疑問点等があったり、今更聞けないことがないように、いつでもご意見を伺う関係性作りを日頃からしている。ご家族からのご質問には、いつでもお応えできるようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会で来られた時には、最近の様子をお伝えし、ご家族様と対等な関係性作りを行っています。ご家族様の意見を聞き取ることも行い、その場でミニカンファレンスのような状況になる事もあります。入居者様の生活がより良いものになるように、家族様ともよく話し合える関係が出来ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務効率化は、職員目線ではなく、入居者目線での運営を行うように役職者が指導している。職員のやりたい事は、法人理念にもあるように「生きがいある人生に、挑む」を実践できるよう、常に役職者はチャレンジできるように、職員の自由な発想を推奨している。思いつかない職員には、役職者から職員の得意なことや、趣味の部分を業務に生かされるよう指導を行うことで、きっかけが作られ、職員も生き生きとした仕事を行い、達成感も味わえる。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時には、個々の希望休を事前に聞き、複数日休暇を取りたい時も希望に沿うようにしている。毎月各施設で表彰制度があり、頑張った人に千円支給制度が法人全体にある。出勤時の元気がない様子や、日常業務時にも何となく元気がないと感じる職員を発見した時は、役職が声をかけ、悩み事などを聞くようにしている。定期的に役職が個人面談を行うようにしている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じて研修参加を促している。地域で行われる研修への参加の機会を回覧などで知らせたりしている。積極的ではない職員へは、個別にその日に管理者と一緒に研修場所に行くようにセッティングし、無理強いはないが研修に行くことで、学びが出来ることを体感してもらっている。法人では、キャリアアップ研修もあるので、全職員に促している。認知症実践者研修等にも参加希望を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH施設長の見学を積極的に取り入れている。法人内のGH管理者が集まり、相談をお互いに行うことで、より良いものを目指している。デイサービスや特養、住宅型有料などの見学にも行き、まねのできるどころや、ノウハウを聞く機会を作っている。足柄上地域医療連携主催のグループホーム部会に参加し、GHを運営していく上での課題や他のGHはどのような対応をされているのかを定期的に話し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談を行い、施設での生活支援へのご希望をお伺いしている。なんでも聞ける関係性を心がけて対応を行っている。入居時の不安が、高齢者のみでの荷物運びに不安を抱えておられる時は、お手伝いするなど、臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に感じていることを契約時などですぐに言うて下さる家族もあるが、中々言えない家族の方は、顔を合わせる回数が増えることで、良いコミュニケーションが出来るので、そこから本心をお伺い出来ることもある。同じ対応ではなく、その家族に合わせた対応を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族がご希望の支援の内容を一番目の支援とする。そして、このような生活を送って欲しいの希望をお聞きし、その目標に向かった支援計画を実行している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体の支援ではなく、ご本人主体での支援を考える。ご本人の達成感や〇〇したいの気持ちを尊重した支援を行う。周りの方々との関係性も良好に保てるよう、たわいのない会話を職員が橋渡ししたり、ゲーム等で楽しく過ごしたり、ドライブと一緒にいくことで関係性を良好に出来るよう支援を行う。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限はなく、一緒にいつでも過ごせる環境づくりを行っている。外出、外泊も自由に来ることを伝えている。理美容に関しては、外に連れ出す良い機会と捉え、家族と一緒に理美容に行かれることもある。LINEでつながっている遠方の家族にも写真や動画を送ることでいつでも様子がわかるようにしている。インスタグラムも見ておられる家族が多く、様子がわかると好評を得ている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、ご自宅近くにドライブに行くこともある。そこで、近所の方にお会いすることもあり、その後、面会に来られることもある。在宅時代のケアマネジャーの事業所にご本人とドライブで行き、入居後のお話しを行うこともある。その時に記念写真も撮っている。色々と昔のことを思い出されてお話をされる方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様の心身の状態に合わせ席を配置している。他の方と一緒に過ごすのが苦手な方は無理強いをせず、距離をとって頂き職員がタイミングを見計らい話しかけたりと孤立しないようにしている。たわいのない会話で、職員が会話の橋渡しを行うこともしている。洗濯畳で大きなリネン類を協力して畳まれることもあり、関係性をよくするように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁を大事にし、サービス終了後も相談を受けたり・アドバイスをしたりとフォローできる体制が出来ている。お亡くなりになられた時のご連絡やご挨拶に来られる家族があり、はなの路でのエピソードを話し合う関係性が出来ている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が困難なお客様へは、これまでの生活歴やご家族様から聞き取りを行い、それらのことを鑑みながら、今のご本人の立場にたち「どうしたいのか、過ごしやすい環境はどんなものなのか」を考えていく。普段の様子も観察しながら本人の希望を探ったりし、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネージャー、ご本人、デイサービス等の介護保険のご利用があれば、利用しているところの担当者・職員さんに状況をお伺いして、情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の活動は何が好みで、何が好みではないのか等の把握を行う。以前は出来ていた事が、出来なくなっている事を把握し、記録し他職員とも連携している。日内の時間帯によっても変化があるので、その時の状態を把握し、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の面会時や電話・LINEアプリ等にまめに現状の報告と今後起こりえる事を伝えるようにしている。また、必要に応じご家族様に時間をとって頂きしっかりと話し合いの場を設けている。その情報をもとに介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼの記録システムで常にお客様の最新の情報を把握し職員間での情報共有を努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人だけでなく、ご家族様の状況に合わせて、在宅医療・訪問精神科・訪問歯科・訪問マッサージ・訪問美容のサービスを取り入れ柔軟な対応が出来るようにしている。ご家族様の負担を減らしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には季節に応じた観光場所が多彩である。お祭りも多く積極的に参加している。例えば、開成町阿波踊りは雨天時、地元の方が訪問し、目の前で阿波踊りを見せてくださる。図書館やスーパー、洋品店、道の駅等にお出かけし、地域の資源に触れ合っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を第一にし、かかりつけ医を選んでいただいている。希望があれば、訪問診療のある協力医療機関を提案している。外部の医療機関へ行かれるときは、職員が状態をご家族様に説明したり、手紙を渡したり、時に同行し医療機関との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回法人内の看護師が来てくださり、看護師とも相談が出来る関係性が出来ている。ほのぼの看護師がどこにいても状況が把握できるようになっており、的確な指示が出せるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換や相談を行い関係性作りに努めている。入院時等は定期的に病院とやり取りを行い、家族とも情報共有を行っている。退院時には、ご本人に面会し、ご本人の様子を見、状態の把握を看護師から直接話をお聞きし、退院後の対応などを相談し、入居者や家族が不安にならないようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化された時のお話はさせていただいている。ご本人・ご家族様の希望を優先にし、医療機関ともお話の場を設け、施設として提供できるサービスを説明し十分にご理解を得て支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の医療的処置ファイルなどを活用し、急変時等の対応の仕方の情報共有をしている。また、ドクターメイトや訪問看護師などに連絡しわからないこと等を聞いて情報を得ている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施。参加できていない職員にも状況を画面で回覧している。BCPの研修を行っている。水害避難訓練を年1回以上行っている。地震時の訓練も行い、施設に問題がなく、余裕があれば、近隣の方のお手伝いについても出来る範囲で行えるよう考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	分からない状況は、不安をもたらすので、その人が理解できる声掛けを行っている。人格や尊厳は、皆同じ考え方ではないので、その方が生きてきた環境を把握した声掛けをしている。職員一人一人のその方との関係性にも関わってくるので、一概に決まり切った声掛けはせず、臨機応変な声掛けを行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から本人がしたい事を引き出すように会話を行っている。また、画像や動画を見せたりしながら、理解を得ながら話をすすめるようにしている。そんな会話の中から、ご本人の本意を聞き逃さないようにし、聞き出した結果を記録し共有している。また、疎通困難な方へは家族の情報をもとに提案をさせていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあくまでも目安として考え、職員がお客様のペースに合わせて臨機応変に対応を行っている。お客様が過ごしやすい環境作りに今後も努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には洋服を選んで頂く。少し困難な方には、職員と共に選んだりしている。整髪では、分け方などを本人に確認しながら行う。疎通が困難なお客様に対しては、起床後や食後等に衣服や口周りを綺麗に配慮している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様が食事の盛り付け・後片付けを自分の役割と思って自ら行われている。お客様自身が下膳してくださり、その食器をお客様が受け取り洗ったりと、お客様を中心とした食事の時間が作れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほのぼの介護記録に食事・水分量の記録を行っている。また、食事形態や補助具・飲み物を工夫しなるべくご本人様に負担無く摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様個々の力に合わせ見守り・介助・声掛けを行い、清潔を保持している。声掛けのタイミングもお客様の状態を見計らい、無理強いしないようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	大まかな時間は決めてあるが、お客様個々に合わせ少し早めたり、遅らせたりとタイミングをずらして対応している。誘導時も羞恥心に配慮し、声掛けの言葉や声の大きさに気をつけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	原因や影響を個々の状態に応じて考えている。食べ物・飲み物を工夫したり、歩行や運動を促している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は目安として決めてあるが、お客様によっては日課の一部となっている方もいる。入浴時間はお客様のタイミングになるべく合わすようにしており、ゆったりと楽しんで入浴できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣やその日の体調に合わせ必要に応じ適宜休んでいただいている。夜も、時間でお部屋に誘導するのではなく、TVを見たり楽しむ時間を設け、眠たくなったら入眠を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解できるように職員一人一人がお薬の説明書を確認している。与薬時は確認表を用いて職員二人でダブルチェックを行い誤薬がないように行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般を通し、今までご自宅でやってきた事、仕事でされてきた事を提供し、お客様が活躍できる場を提供している。食後の後片付けや、洗濯物畳等自発的に行ってくださる環境になっている。また、定期的に行事などを行いお客様に楽しみもって、気分転換をしていただいている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日ごろから外へ散歩ドライブ等に出かけている。また、時折ユニット全体での外出も行い、事前にご家族様へ許可を得て行っている（去年は虎屋工房、丹沢湖など）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は持っていないが、認知症であるお客様にとって金銭を所持していたほうが良いと判断した場合はご家族に相談し、同意を得た上でお客様に金銭管理を任せている方もいる。所持している事の大切さを理解した上での対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様から要望があれば必要に応じ支援している。 また、中には携帯電話をもっているお客様もいるのでご本人のタイミングでご家族様へ連絡を行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内が常に清潔で居心地が良い空間であるよう努めている。お客様と一緒に製作した季節のものを飾ったり、イベント時の写真を飾ったり、職員が月に1度に季節に合った模様替えをし、季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置く事でお客様同士がゆっくりとお話することが出来ている。また、お部屋で御自分の趣味をされたり、休まれる方もいたり、一人になれる時間も大切にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅に伺わせて頂き、お部屋の配置に近い状態になるようベッド・家具等配置している。ご自宅で愛用していたものを積極的に持参して頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂場の案内やお部屋の入り口には表札をつけることで、混乱無く生活できるように支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム はなの路

作成日 令和8年3月11日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	一人一人のスキルアップ、日本語の理解	チーム員全てが理解し、意見が言えるようになる事。	的確な状態把握を行う為、各々の知識力を付ける。内・外部の研修を受けられる環境を作る。シフトに組み込む。	1年以上
2	35	訓練・研修を行っているが、本番時に的確に動けるのか心配	不安なく有事時に行動できるようになる	繰り返しの確認と訓練回数を増加する。できれば、毎月避難訓練を行えるようになると良い。	1年以上
3	36	出来ていない時がある	いつも出来る	出来ていない時の状況把握。自覚し、反発することなく素直に受け止められ、改善、精神状況の把握も行っていく。	半年
4	45	出来ていない時もある	いつも出来る	職員のスキルアップのため、現場で相互に確認し合う時間（シフト）を作り、改善点を見つけ、実施する事が出来るようになる。	3か月
5	47	うろ覚えのお薬がある	職員全てが理解できる	ひと目でわかるお薬の名称・効能・副作用等の一覧を作成する。	3か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。